

## 1-1 「琵琶湖」の名前

琵琶湖の名前が文献に登場するのは、湖の歴史に比べて新しく、16世紀初頭が最初で、広く知られるようになったのは今から約320年前です。それまでは近淡海・淡海・水海・湖などと呼ばれていました。名前は湖上に浮かぶ竹生島にまつられている弁才天がもつ楽器の琵琶が湖の形状に似ていることに由来します。

### 1. 竹生島の弁才天像

琵琶湖の誕生は古く今から約400万年前、そしておおよそ現在地に定まったのは約40万年前と言われ、世界有数の古代湖です。その悠久の歴史に比べて琵琶湖の名称が一般に知られるようになったのは、今から約320年前と非常に新しいものです。

当初から琵琶湖と呼ばれていたのではなく、最初に「琵琶の形に似たり」という字句が文献『溪嵐拾葉集』に登場したのは14世紀初頭のことで、それまで琵琶湖のことは近淡海・淡海・水海・湖・近江の海・細波・鳩の海などと呼ばれていました。

湖の名前が琵琶に典拠するのは、湖上に浮かぶ竹生島にまつられた弁才天です。弁才天はもともとインドのヒンドゥー教に登場するサラスバティーという女神で、弁才天、妙音天、美音天などと漢訳されています。弁才天は楽器琵琶をもつ二臂琵琶演奏像で水を守る神、仏法を守る神としてインド、中国を経て奈良時代に伝教の伝来とともに、日本に導入されたのです。



けんばんちやくしやくべんざいてんぞう  
写真1-1-1 絹本着色弁才天像（宝厳寺蔵）

### 2. はじめて登場するのは16世紀初頭

弁才天の持つ琵琶が、どうして湖の形状に似ていると言われるようになったのでしょうか。前出の『溪嵐拾葉集』の編述者は、比叡山延暦寺の学僧光宗ですが、おそらく眼下に広がる湖を日々眺望して、楽器の琵琶から湖の形状を観想したに違いありません。上空から見ることでできない時代に、驚くべき洞察力といえるでしょう。また『同書』には弁才天は湖とともに比叡山を守る神として位置付けられています。

ところで、固有名詞の琵琶湖が、はじめて文献に登場するのは室町時代後期いわゆる16世紀初頭までさがる。それは京都の禅僧景徐周麟<sup>けいじゅうりん</sup>が湖を訪れ、漢詩集「湖上八景」にみるすることができます。

そして、琵琶湖の名前が広く使われたのは、さらに年代がぐだり、1689(元禄2)年の著名な儒学者貝原益軒の日記です。これには琵琶湖全体の地形を綴り、最後に「故に琵琶湖と云う」と記しています。これ以降琵琶湖の名称は文学作品、浮世絵版画、地図などに使われ、すでに定着したことを物語っています。

### 3. 琵琶の音色との関係

もう一つ注目すべきは、湖の形状とともに楽器の琵琶の発する音色との関係です。

湖の枕詞にさざ波、細波、小波の字句があります。琵琶の奏でる音色と、湖辺に打ち寄せる湖水の発する音に相似点があるように考えられます。弁才天には妙音・美音天の異称があることから関係付けられるでしょう。

ちなみに、管見の限りではありますが、世界の湖の呼称のなかで琵琶湖のように楽器にちなんだ湖は、イスラエルのキネレット湖だけで、湖名は琴(キンノール)が語源になっています。地元では湖水の浪の音が、琴をかき鳴らす音に似ていることに由来していると言われています。

これからも湖の形状とともに琵琶の奏でる音色と湖水のさざ波が相似していることも、名前の由来に密接な関係があると考えられます。